

目次

平成30年度高圧ガス容器全国一斉特別回収運動について……………1

- ◎ 平成30年度ポスターデザインが決定
- ◎ 平成29年度回収結果
- ◎ 医療ガス容器点検キャンペーン

会員紹介 —共同高圧ガス工業株式会社—……………3

- ◎ 沿革
- ◎ JIMGA東海地域本部との関わり
- ◎ 地域との取組み

e-ラーニング「水素の安全な取扱い(改訂版)」のリリースについて……………5

- ◎ 8月1日にJIMGAウェブサイトにて改訂版を公開

溶解アセチレン技術サブWG発足の紹介……………5

- ◎ 「溶解アセチレンの製造に関する基準」の改訂作業を実施予定

農林水産大臣からの感謝状……………6

- ◎ 高病原性鳥インフルエンザ防疫対応への感謝状

新事務局員の紹介……………6

- ◎ 産業ガス部門、医療ガス部門の新事務局員3名を紹介

炭酸ガス保安講習会のご案内

第18回炭酸ガス保安講習会を下記の日程でJIMGA地域本部の主催で開催します。

| 主催 | 開催日 | 開催場所 |
|--------|----------------|------------------|
| 東北地域本部 | 平成30年11月9日(金) | 仙台ガーデンパレス |
| 関東地域本部 | 平成30年10月11日(木) | 大田区産業プラザPio |
| 東海地域本部 | 平成30年9月26日(水) | ウインクあいち |
| 近畿地域本部 | 平成30年11月20日(火) | コンファレンスプラザ大阪御堂筋 |
| 中国地域本部 | 平成30年11月22日(木) | TKPガーデンシティ広島駅前大橋 |
| 九州地域本部 | 平成30年11月9日(金) | 福岡県中小企業振興センター |

※詳細は各地域本部までお問い合わせください。



平成30年度高圧ガス容器全国一斉特別回収運動について

高圧ガス容器全国一斉特別回収運動が今年も10月に行われます。

この運動は昭和62年に開始され、今回で31回目となります。例年通りJIMGAの他、高圧ガス保安協会・中央容器管理委員会、全国高圧ガス溶材組合連合会、日本ソーダ工業会、日本フルオロカーボン協会、日本肥料アンモニア協会の協力の下で実施されます。

特別回収運動では、放置容器の他、停滞容器として納入後6か月以上経過した使用済みの貸借容器や、所有者または内容物が不明で処分を依頼された容器を回収します。

平成29年度回収結果

放置容器の破裂事故が続発した平成28年度同様、特に消費量の少ない客先への周知と確認、回収運動の訪問先軒数の集計、事故情報や法的取扱いのチラシの配布など、徹底した取り組みを会員の皆様にお願ひしました。

結果として、表1のとおり1,410本の放置容器および不明容器が回収され、その内、不明容器は781本と、平成28年度よりも全体量としては減少したものの不明容器の割合が31%から55%に増加しました。ガス種別の回収本数は、表2のとおりであり、酸素およびアセチレン容器が合わせて6割を占める傾向は例年と同様です。



平成30年度ポスター

表1 回収容器数の推移

(単位: 本)

| 実施年度 | 放置・不明 (A) | 不明のみ (B) | 不明率 (B)/(A) |
|--------|-----------|----------|-------------|
| 平成29年度 | 1,410 | 781 | 55.4% |
| 平成28年度 | 2,878 | 901 | 31.3% |
| 平成27年度 | 1,528 | 454 | 29.7% |
| 平成26年度 | 1,394 | 387 | 27.8% |
| 平成25年度 | 1,592 | 403 | 25.3% |
| 平成24年度 | 1,778 | 522 | 29.4% |
| 平成23年度 | 1,634 | 525 | 32.0% |
| 平成22年度 | 1,806 | 513 | 28.4% |
| 平成21年度 | 2,637 | 750 | 28.4% |
| 平成20年度 | 3,779 | 907 | 24.0% |

表2 平成29年度ガス種別回収結果

(単位: 本)

| ガス種 | 放置・不明 (A) | 不明のみ (B) | 不明率 (B)/(A) | ガス種割合 (B)/合計 |
|----------|-----------|----------|-------------|--------------|
| 酸素 | 380 | 231 | 60.8% | 29.6% |
| 窒素 | 114 | 43 | 37.7% | 5.5% |
| アセチレン | 407 | 272 | 66.8% | 34.8% |
| 炭酸ガス | 128 | 48 | 37.5% | 6.1% |
| アンモニア | 2 | - | 0.0% | 0.0% |
| 水素 | 14 | 10 | 71.4% | 1.3% |
| ヘリウム | 42 | 6 | 14.3% | 0.8% |
| フルオロカーボン | 86 | 64 | 74.4% | 8.2% |
| 塩素 | 2 | 2 | 100.0% | 0.3% |
| アルゴン | 55 | 14 | 25.5% | 1.8% |
| 特殊ガス | 18 | 7 | 38.9% | 0.9% |
| 内容物不明 | 21 | 16 | 76.2% | 2.0% |
| その他 | 141 | 68 | 48.2% | 8.7% |
| 合計 | 1,410 | 781 | 55.4% | 100.0% |

さらに、表3のとおり不明容器の半数近くは消費者の容器置場から回収されています。

表3 回収場所と回収容器数の推移

(単位: 本)

| 回収場所 | 解体・建設現場 | | 河川・山林 | | 公道・公園 | | 湾岸・海岸 | | 容器置場 (消費者) | | 容器置場 (ガス業者) | | その他 (駐車場他) | | 合計 | 10L未満 容器 |
|----------|---------|-----|-------|-----|-------|----|-------|----|---------------|-----|----------------|-----|---------------|-----|-----|-------------|
| 平成29年度合計 | 195 | 25% | 36 | 5% | 7 | 1% | 26 | 3% | 339 | 43% | 89 | 11% | 89 | 11% | 781 | 193 |
| 平成28年度合計 | 209 | 23% | 49 | 5% | 14 | 2% | 18 | 2% | 330 | 37% | 205 | 23% | 76 | 8% | 901 | 188 |
| 平成27年度合計 | 104 | 23% | 11 | 2% | 3 | 1% | 22 | 5% | 211 | 46% | 45 | 10% | 58 | 13% | 454 | 106 |
| 平成26年度合計 | 58 | 15% | 52 | 13% | 18 | 5% | 16 | 4% | 173 | 45% | 53 | 14% | 17 | 4% | 387 | (未集計) |
| 平成25年度合計 | 60 | 15% | 19 | 5% | 23 | 6% | 28 | 7% | 122 | 30% | 61 | 15% | 90 | 22% | 403 | (未集計) |
| 平成24年度合計 | 132 | 25% | 48 | 9% | 15 | 3% | 10 | 2% | 219 | 42% | 33 | 6% | 65 | 12% | 522 | (未集計) |
| 平成23年度合計 | 136 | 26% | 21 | 4% | 7 | 1% | 10 | 2% | 194 | 37% | 73 | 14% | 84 | 16% | 525 | (未集計) |
| 平成22年度合計 | 95 | 19% | 26 | 5% | - | 0% | 40 | 8% | 246 | 48% | 59 | 12% | 45 | 9% | 513 | (未集計) |

(容器処理WG 事務局 岩戸 康人)

医療ガス容器点検キャンペーン

JIMGA医療ガス部門では、昨年から取り組んでいる「医療ガス容器点検キャンペーン」を今年も「高圧ガス容器特別回収月間」および厚生労働省が主催する「医療安全推進週間」(毎年11月下旬)と連携し、10月1日～11月30日の期間で展開します。

このキャンペーンは、医療施設内の医療ガス容器の一斉点検や職員研修のサポート等の具体的な取り組みを通じ、各都道府県の容器管理指針と共に医療ガス容器保安対策指針を活用し、容器の早期返却の促進および安全な取り扱いの啓発と医療ガス容器貸借契約の締結を推進するものです。

昨年の9月6日に厚生労働省医政局から発出された「医療ガスの安全管理について」(通称96通知)の別添4.職員研修指針に、医療ガスボンベの安全管理に関する留意点が示されています。特に「ボンベの長期留置又は放置による事故の発生を防止するため、医療ガス納入業者と協議の上、納入時期を明示するなどして定期的にボンベの点検及び管理を行うこと。」と記載されていますので、医療機関と一体となって事故防止に取り組んでいきたいと思えます。

また、容器管理のツールの一つとして、お客様にも容器の納入月や返却タイミングが一目でわかる「納入月ラベル」の容器への貼付を引き続き推進していきます。

2018年10月1日(月)～11月30日(金)

JIMGA

医療ガス容器点検キャンペーン

Check!! Check!!

容器の一斉点検

- 容器の保管状況の確認 (転倒防止装置、充空及び異種容器の区別等)
- 調整器やバルブの不具合等、事故誘因容器の確認
- 長期停滞容器の発見または把握

職員研修のサポート

- 医療ガス安全管理委員会が行う院内講習会をサポートし、容器の安全な取扱方法の啓発を推進

ボンベの長期留置又は放置による事故の発生及び空ボンベの誤使用を防止するため、医療ガス納入業者と協議の上、納入時期を明示するなどして定期的にボンベの点検及び管理を行うこと。

平成29年9月6日付医政局(96通知)別添4.職員研修指針に示す医療ガス安全管理指針に基づき、医療ガス納入業者と協議の上、納入時期を明示するなどして定期的にボンベの点検及び管理を行うこと。

推進団体 一般社団法人 日本産業・医療ガス協会

平成30年度ポスター

(医療ガス部門 事務局 福盛 康宏)

会員紹介 ー共同高圧ガス工業株式会社ー

岐阜城の天守閣から南の方角を見渡すと、壮大な濃尾平野が一望できます。弊社は南北を走る国道22号（名岐バイパス）、東西を走る国道21号（岐大バイパス）、そして東に東海北陸自動車道と、岐阜の南玄関口である羽島郡岐南町で製造・物流・販売の拠点として活動を行っております。

沿革

昭和49年、増加するガス需要に対応するため地元販売店2社が提携し、共同高圧ガス工業株式会社を設立しました。同年、圧縮酸素・液体酸素の製造開始、翌50年に二酸化炭素の製造が始まり、昭和54年に医療用酸素、56年には圧縮窒素・液体窒素の製造、LGC容器検査場と事業規模を拡大しました。

平成21年老朽化した高圧ガス設備をリニューアルし、アルゴン、混合ガスの設備を追加して充填所の作業環境を整えました。「保安は総てに優先する」を経営方針に、製造から消費に至るまで無事故無災害を目標に現在も継続しています。

また平成28年に水素社会の実現に向けて、清流パワーエナジー株式会社の委託を受け、水素ステーションの運営に参画しております。現在県内4か所の水素ステーションを2台の移動式製造設備で巡回し、水素燃料電池車へ供給しています。

JIMGA東海地域本部との関わり

昭和51年に東海酸素工業会、炭酸ガス工業会への入会により東海地域の業界と繋がり、高圧ガスの歴史、保安対策など斬新な考え方を勉強させていただきました。

JIMGA東海地域本部に名称が変わり、保安教育グループ、充填ガス技術グループ、RFタグワーキンググループ、医療ガス岐阜支部会員として、東海北陸セミナー、その他講習会の開催に参加しています。自主保安の確保や事故・災害対策等、得られた情報を自社および関連会社の保安教育で提供し、社員の保安意識の高揚に努めております。



水素ステーションの日常点検の様子

地域との取組み

当社は中部高圧ガス充填工業協同組合に所属しており、鳥インフルエンザの発生時には、炭酸ガスの供給を求められております。

平成29年1月14日岐阜県山県市にて、鳥インフルエンザが発生し、夜間に緊急充填の依頼がありました。雪の降るなか160本を充填、即納しました。約8万羽の感染予防に多くの人員が投入され終息しました。

岐阜県地域防災協議会では、LPガス協会と高圧ガス安全協会合同で、東南海地震を想定した製造所の対応訓練や、空気呼吸器装着訓練等の移動防災訓練を実施しております。

さらに当社では非常用電源を設置し、医療用酸素の充填を優先として、停電時に対応できるようにしています。また井戸水の供給についても町と提携しています。



医療用酸素の充填現場

(共同高圧ガス工業株式会社 執行役員工場長 新町 健児)



原料タンク（二層式）

e-ラーニング「水素の安全な取扱い」(改訂版)のリリースについて

8月1日にe-ラーニング「水素の安全な取扱い」改訂版をリリースしました。

教育・研修WGでは、昨年度より内容について、新しい技術の紹介等も取り入れて改訂の討議を重ね、①統計データの更新、②技術資料の見直し、③水素に関する新しい技術の紹介、④理解度テストの設問見直しおよび追加を中心に改訂を行いました。

本教材では、水素の基礎知識から取扱い時の安全、事故事例等について幅広く学習していただけます。理解度テストは多くの設問より毎回ランダムに15問が出題されますので、是非チャレンジしてください。

下記URLまたはJIMGAウェブサイト内のバナーをクリックしてご利用ください。

<http://www.jimga.or.jp/front/bin/cglist.phtml?Category=7228>



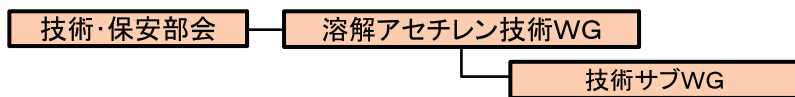
※JIMGA e-ラーニングはFlash Playerを使用しております。
ご利用環境により表示されない場合は、Webブラウザ上のFlash Playerを有効にしてお使いください。

(教育・研修WG 事務局 岡田 恵二)

溶解アセチレン技術サブWG発足の紹介

本年4月13日開催の溶解アセチレン技術WG会議にて、「溶解アセチレン技術サブWG」を組織することとなりました。本サブWGの目的は、JIGA時代から13年間改訂されていなかった「溶解アセチレンの製造に関する基準」の改訂作業の実施です。

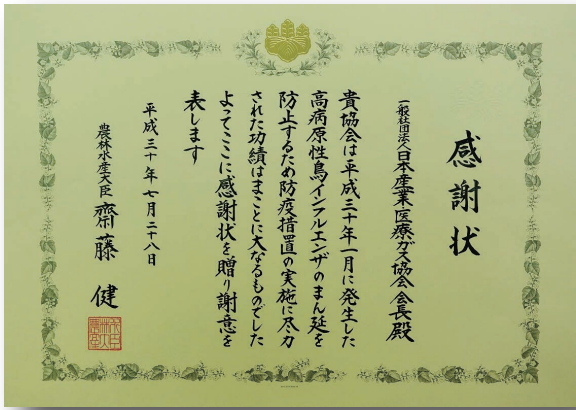
6月15日に第1回サブWG会議を開催しました。2019年6月の技術審議委員会に改訂版を上程、承認されるよう進めていきます。



(溶解アセチレン技術WG 事務局 蛭川 剛二)

農林水産大臣からの感謝状

本年1月に香川県で発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対応に顕著な貢献（防疫資材としての炭酸ガス供給）をしたということで、農林水産大臣からJIMGA会長あてに感謝状をいただきました。ご対応くださった香川県支部会員ならびに四国地域本部会員各位のご尽力に感謝申し上げます。
 （専務理事 加藤 尚嗣）



感謝状

新事務局員の紹介



名 前：岡田 恵二（おかだ けいじ）
 現住所：千葉県船橋市
 生年月：1958年 3月
 略 歴：1980年 4月 帝国酸素(株)（現日本エア・リキード(株)）入社
 2005年 4月 日本エア・リキード エンジニアリング社 プラント営業部
 2007年 10月 製造部 水島オキシトン出向
 2010年 4月 エレクトロニクス事業本部 バルク&オンサイト部
 2013年 4月 製造部 製鉄オキシトン出向
 2016年 11月 工業事業本部 ダイレクト事業部オンサイト
 2018年 7月 JIMGA 常務執行役員（産業ガス部門）

趣 味：体を動かすことが好きです。サッカーを長年してきましたが、55歳過ぎてからは、激しい運動は筋肉・心臓に負担がかかるということで、現在は年10回くらいのゴルフと週1～2回のウォーキング程度にしています。

抱 負：今までの経験が少しでも業界に役立つよう、頑張っていきたいと思います。JIMGAでは、技術・保安部会を担当をさせていただきます。皆様とワーキンググループを通じて、技術・保安のレベルアップ、そして業界のレベルアップに努めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



名 前：白坏 隆文（しろつき たかふみ）

現住所：千葉県柏市

生年月：1958年 8月

略 歴：1984年 4月 テイサン(株)（現日本エア・リキード(株)）入社

1998年 1月 京浜事業所勤務

2003年 4月 四国支社勤務

2005年 6月 リスクマネジメント本部 IMS推進室勤務

2007年 4月 東京支社勤務

2010年 1月 東日本地域本部勤務

2013年 1月 エレクトロニクス事業本部勤務

2018年 7月 JIMGA常務執行役員（医療ガス部門）兼
関東地域本部 医療ガス部門 事務局長

趣 味：国内海外問わず旅行に行き景色、建物、風景、美術館、博物館を見て回ることに、その土地の美味しいものを食べ歩くこと、写真を撮ること、クラシック音楽を聴くこと。

抱 負：たくさんの方々との邂逅（かいこう）を大切にしてきました。JIMGAの仕事に早く慣れ会員の皆様のお役に立つよう頑張りたいと思います。



名 前：徳永 裕通（とくなが ひろみち）

現住所：東京都足立区

生年月：1957年 4月

略 歴：1976年 4月 厚生省医務局入省

2001年 4月～ 国立病院を7か所勤務

2018年 3月 国立精神・神経医療研究センターを最後に定年退職

2018年 7月 JIMGA 医療ガス部門 業務部長

趣 味：学生時代を乗り鉄として過ごす。入省後、スキーとスクーバダイビングに目覚める。現在は軽登山とキャンプにはまっています。

抱 負：MGRを担当することとなりました。一刻も早く仕事に慣れ、皆様のお役に立ちたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。